

新春 健康祈願法要

第59回薬師寺まほろば塾・東京塾 令和7年2月10日(月)開催



茶道武者小路千家
第15代家元後嗣

千宗屋さん

幼少期から神社仏閣が好きで、一風変わった子でもした。小学生の頃、土曜日の「半ドン」はランドセルを置いて電車に乗り、1人でお寺を回るほどでした。

利休の心工夫重ね息づく

利休さんがお使いになつた釜、茶碗、道具類を使いま。当時の再現ではなく、あくまで今の行いの延長としてです。

利休さんがお使いになつた釜、茶碗、道具類を使いま。当時の再現ではなく、あくまで今の行いの延長としてです。

初の水を井戸でくみま。旧年の釜の湯をいっぺん全部流して、新年の水を満たし、旧年から引き継いだ炭火に釜をかける。古い年と新しい年を無事につなぎ、伝統を次の年に守り伝えることの象徴的なことです。

昔は、埋み火はこの家で一年中行っていました。いりの火を保つことは、暮らしそのもの、生きるこの象徴です。そこに注ぐ油を断つと火は消えてしまふ。油を断つのが一番の敵ということが、「油断大敵」の言葉にもつながります。

火を伝えることは、仏教にとっても、お茶にとっても、伝統を継ぐこと、象徴です。そこに注ぐ油を断つと火は消えてしまふ。油を断つのが一番の敵ということが、「油断大敵」の言葉にもつながります。

薬師寺 まほろば塾 東京

日本人の心のあり方について考える「薬師寺まほろば塾」の東京塾(法相宗大本山薬師寺、読売新聞社主催)が2月10日、東京・日本橋の三越劇場で開かれた。塾長を務める加藤朝胤・薬師寺管主の法話や、茶の湯と仏教に通じる精神を説く茶道武者小路千家第15代家元後嗣の千宗屋さん(49)の講演に、約500人が聴き入った。

伝統ともしび継ぐ



薬師寺は680年、天武天皇が皇后の持統天皇の病氣平癒を願って建立を発願しました。しかし6年後、天武天皇は亡くなりました。即位した持統天皇が遺志を継いで697年に寺を完成させ、7月20日、本尊の薬師三尊像が開眼されました。持統天皇はその前、手を合わせたのです。

天智天皇の死後、食料を吉野に送らせないといいた不穏な動きがあり、672年に「壬申の乱」へ発展しました。戦いに勝った大海人皇子は天武天皇として即位し、673年に飛鳥の川原寺で一切経の写経を始めます。「日本書紀」に写経の言葉が出るのはこれが最初です。

薬師寺の高田好胤・元管主は伽藍復興のためにお写経勸進を始めました。薬師寺の金堂は15028年に戦乱で焼けました。薬師三尊像は残り、約70年後に仮のお堂ができたものの、私が1968年、初めて薬師寺へ来た時は、天井の隙間から青空が見えるほど傷んでいました。

最初誰もお写経を知りませんでしたが、68年6月に初めてお写経を納めていただきました。それから57年。今では金堂などの伽藍だけでなく、お写経道場や東京の別院もできました。天武天皇は壬申の乱で亡くなった人を用いた、多くの人の幸せを願って、写経を始めたと思います。

高田元管主のお写経勸進も「多くの人たちの祈りをもらって伽藍を復興したい」との思いが込められています。奈良の寺は国の平和、国民の幸せを願って建てられました。持統天皇がどんな思いで開眼に臨まれたかを想像し、薬師三尊像に手を合わせていただければありがたいです。

法要 健康願う

法話と講演に先立ち、新年を迎えた参加者の健康を願う法要が営まれた。写真は、寺の本尊・薬師如来像(国宝)を写した掛け軸と吉祥天女像(同)の模写がまつられた舞台上、加藤管主を導師に僧侶5人が祈りをささげ、参加者も一緒に般若心経を唱えた。



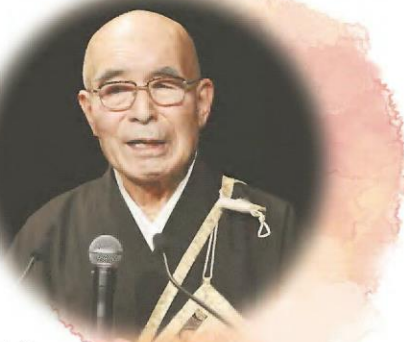
持統天皇の思い 想像して

持統天皇は、当時の姿のままお参りできます。これは薬師寺だけだと思います。天武天皇の国づくりについてお話しします。飛鳥時代、中央集権国家を根付かせようと取り組んだ天智天皇が、弟の大海人皇子、のちの天武天皇を皇太子に指名しました。ですがその後、自分の手に後を継がせたいと太政大臣に任命し、弟との仲が悪くなります。

大海人皇子は出家して吉野に隠れます。しかし、天智天皇の死後、食料を吉野に送らせないといいた不穏な動きがあり、672年に「壬申の乱」へ発展しました。戦いに勝った大海人皇子は天武天皇として即位し、673年に飛鳥の川原寺で一切経の写経を始めます。「日本書紀」に写経の言葉が出るのはこれが最初です。

高田元管主のお写経勸進も「多くの人たちの祈りをもらって伽藍を復興したい」との思いが込められています。奈良の寺は国の平和、国民の幸せを願って建てられました。持統天皇がどんな思いで開眼に臨まれたかを想像し、薬師三尊像に手を合わせていただければありがたいです。

老川祥一・読売新聞グループ本社会長あいさつ 「まほろば」は、ヤマトタケルノミコトが詠んだ歌にある言葉で、美しいとか、優れたところという意味です。今、世の中はSNSなどで人の悪口を言ったり、自殺に追い込んだり、精神の荒廃が広がっています。人と人との対話からはぬくもりや優しさが生まれます。対面で言葉を交わすことがますます大事になっています。今日のお話を、心の支えに役立てていただければと思います。



薬師寺管主 加藤朝胤塾長

かとう、ちよひん 1949年、愛知県生まれ。23歳で薬師寺に入り、高田好胤和上に師事。日本法科大学、龍谷大学文学部卒。2019年から管主を務める。著書に「ブツダの言葉エッセイ」「般若心経」唯識「これだけは知りたい」など。



文は稲野ななせ、写真は米山要が担当しました。

- 協賛しています(順不同)
- 近畿
- 岩谷産業
- サンポートホールディングス
- 近鉄百貨店
- パソニックホールディングス
- 大阪シティ信用金庫
- 岩谷瓦斯
- キンセイマテック
- 新コスモス電機
- ワコホールディングス
- 今日庵
- 小山
- 佐藤木材
- 中部
- トヨタ自動車
- 東海旅客鉄道
- 東海理研
- ウエルリンク
- ヒノキ新業
- エヌエスティ・グローバルリスト
- 遠州茶道宗家
- クオールホールディングス
- セントラル石油瓦斯
- 山田合同事務所
- 九州
- はせがわ
- 中国
- 合人社グループ
- 東北
- 熊谷電気

チャラーよみうり」(大阪市北区)▽6月6日
 【神戸】よみうり神戸ホール(神戸市中央区)▽6月11日
 【和歌山】和歌山県民文化会館(和歌山市)▽3月18日、7月16日、11月17日
 ◇
 推進の会、法話とお写経の会の問い合わせは、事務局(0742・33・8942)。

【出張講座】
 薬師寺まほろば塾は、大阪、神戸、和歌山で「法話とお写経の会」を開催している。同寺僧侶による法話の後、写経に取り組む。参加費2000円(推進の会会員は無料)で、写経は納経料2000円。法話のみの参加も可能。日程は以下の通り。受け付けは午後1時から。
 【大阪】読売大阪ビル地下1階「ギ

【次回東京塾】
 6月25日午後1時から、東京・日本橋の三越劇場で。解剖学者の養老孟司さんが講演する。参加費2000円(薬師寺まほろば塾推進の会会員は無料)。
 【会員募集】
 「薬師寺まほろば塾推進の会」は会員を募集している。年会費(1口)は個人6000円、法人30万円。特典はまほろば塾の原則無料参加など。